

# 気軽に取り入れるN I E

丹波市立青垣中学校

校長 内田 順子

教諭 笹倉 佑美佳

## 1. はじめに

本校は、丹波市の最北端に位置する青垣町にあり、約 100 km<sup>2</sup>の校区の多くが山地である自然豊かな地である。全校生徒は165人、1年生1クラス、2・3年生が2クラスの小規模の学校である。昨年度の調査では約8割の家庭が新聞を購読していると答えており、比較的購読率の高い地域と言える。しかし中には何新聞を購読しているかも分かっていない生徒がいるなど、積極的に新聞を読んでいる生徒は少ないのが現状である。

## 2. 新聞コーナー

毎日届く新聞を誰もが簡単に閲覧できる場所を設置した。1階玄関入ってすぐの多目的ホールの目立つ場所に新聞コーナーを作った。当日の新聞が置かれている横には新聞を広げるための大きな机を置いた。その机に新聞を広げて閲覧する姿が見られた。また、机の下には、届いた新聞全てをストックしておき、いつでも授業で使えるようにした。新聞は5・7・9・10月に3紙、6・11月に6紙届くようにした。



## 3. 「今日の一面」

新聞コーナーの横には、「今日の一面」として、その日届いた新聞の一面の実物大のコピーを掲示した。3紙が届いていた時期には上下ともコピーし、張り合わせた上で掲示した。6紙が届いていた時期には一面の中でも上半分を掲示し、トップ記事が読めるようにした。3年生の中には登校時に一面をチェックしてから教室に向かう生徒も見られた。



## 4. 記者派遣事業

11月、記者派遣事業で講演をいただいた。昨年度は主に新聞記者の活動についてお話しいただいたので、今年度は新聞のトップ記事はどのような基準で選ばれているのか、新聞を見る時に注目してほしい所といったことについてお話しいただいた。講演の最後に質問の時間を設けた所、第何版の違いは何かということや、これまでで一番大変だったニュースは何かなどたくさんの質問が出て、大変盛り上がった。

## 5. 「朝コラム」

毎朝10分の朝読書の時間を利用し、「毎週金曜はコラムの日」として、コラムの書き写しを行った。神戸新聞の正平調を一字一句そのまま書き写した。ベテラン記者の文章をなぞることで、表現力・構成力がアップし、一度に覚えられる言葉を長くしていけることから記憶力のトレーニングとなっている。最初は時間がかかり、10分では半分書ける生徒はほとんどおらず、3分の1を少し超えるくらいの生徒が多かったようである。しかし、回を重ねるごとに書ける量が増え、2学期の終わりには最後まで書ける人が出てきた。3年生では多くの生徒が半分から3分の2を書くことができるようになり、書くのが速くなったと感じた。生徒は一言もしゃべらずに熱心に取り組んだ。10分で一度回収し、担任がチェックした後、生徒に返却した。返却後は続きを書き写し、最後にコラムの感想を書いて再度提出する生徒もいた。

中には夏休みに自分で正平調書き写しのノートを購入し、夏休みをかけて1冊書き終えた生徒もいて、その生徒は書くスピードが上がっており、効果を実感していた。



## 6. 「今日のひとこと」

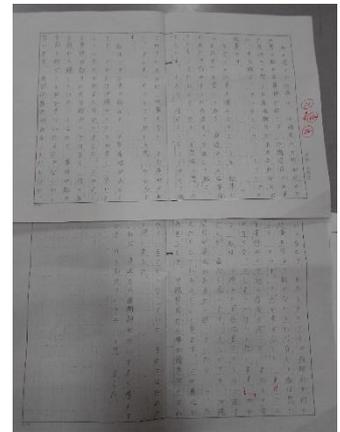
3年生は終わりのSHRの中で、「今日のひとこと」として、生徒が毎日1人ずつスピーチをする時間をとっており、2周目・3周目のテーマとして、新聞記事の紹介を取り入れた。新聞から気になる記事を選び、見出しと

記事の大きな内容を発表した後、それに対する感想を短いものだが発表した。スポーツに関する記事を選ぶ人もいれば、政治に関する記事、地域の問題に関する記事を選ぶ生徒もいた。担当になった生徒の多くが新聞コーナーや「今日の一面」で記事を探していたので、一面の記事から選ぶ人が多かったのも事実である。その際には友だちと一緒に新聞コーナーに行って、別の新聞を読む姿がよく見られた。自分が担当の時以外にも新聞を読む機会になった。



## 7. 国語科の取組（1年生）

新聞の中から自分が興味のある記事を選び、それに関する作文を書く授業を行った。記事を選んだあと、要約や選んだ理由をプリントにまとめた。その上で、400字以上800字以



内で記事の要約と自分の考え・意見を説明した。中には自分の考えを述べた上で、「こうしたらもっと良くなるのではないか」という提案をすることができた生徒もいた。記事はスポーツの記事や当時大きな騒ぎになっていた事件など面積の大きな記事がよく選ばれていた。新聞コーナーのストックの中から新聞を引っ張り出して記事を探す姿が見られた。

## 8. 国語科の取組（2年生）

文法の学習に新聞を利用した。コラムの文章を例文に利用し、品詞分けや用言の活用の学習を行った。「コラムには連用形が多いなあ」といったことを感じながら学習が進んだ。

## 9. 理科の取組（2年生）

天気学習に、新聞に載っている天気図が活用された。前時までに学習した天気記号が実際の天気図でどのように使われているかを読み取った。また、数日分の天気図を提示し、日付順に並べるクイズを行った。天気図の変化から、天気が西から東へと移り変わっていくことを読み取ることができた。実際に体験した天気をもとに授業が行われ、知識を活用した学習になった。

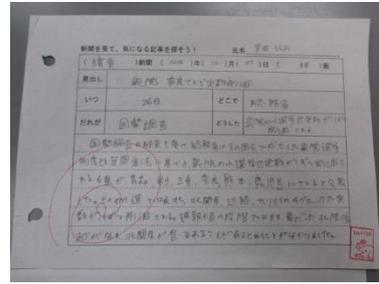
## 10. 理科の取組（3年生）

1学期に化学の分野の学習を行ったころ、新元素名を「ニホニウム」とする報道があり、この単元の最後の授業で「ニホニウム」について紹介・説明した。長い年月をかけて繰り返し実験をして発見に至ったことを知り、感心している姿が見られた。社会の時事問題で出題したところ正答率が高く、関心を持って聞いていたと考えられる。

## 11. 社会科の取組①（3年生）

記事への感想・意見を書く課題を課した。新聞記事の中から自分が気になるものを探して見出しを記入し、いつ、どこで、だれが、何をした記事かをまとめた上で、その記事を読んで感じたことや考えたことを記入した。

「公民」の授業と関係のある記事を選ぶとポイントアップするとしたので、政治や経済に関する記事を選ぶ生徒が多かった。意見・感想の部分は、感想のみを書いたものもあれば、



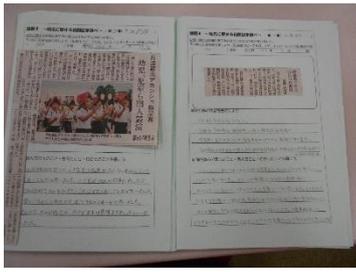
それを踏まえて、自分の考えや選択を書いたものもあった。全て評価を示して返却

した。少しでも良い評価を得るため、たくさん感想を書いたり、自分の意見を書いたりするようにした生徒が多くいた。いくつかの新聞をみて記事を探した生徒もあり、新聞を読む機会を作ることにつながった。

## 12. 社会科の取組②（3年生）

公民の授業において新聞記事を配布して様々な活動を行った。メディアに関する授業では、同じ出来事に関する記事でも見出しが全く違う複数の記事を配って、それぞれの新聞社が何に注目したのかを読み取る活動をした。記事を配布するときには必ず記入欄をつくり、要約や記事で訴えたいことは何か、自分の意見など様々なテーマについて書けるようにした。一番盛り上がったテーマは、記事の中から公民の教科書や授業に出てきた語句を探すものであった。1つの記事から50近い語句を探し出した生徒もあり、盛り上がった。教科書で勉強したことと関係のある記事が数日を前後して新聞に載るということが新鮮で、興味を持って読む生徒が多かった。

### 1 3. 家庭科の取組（3年生）

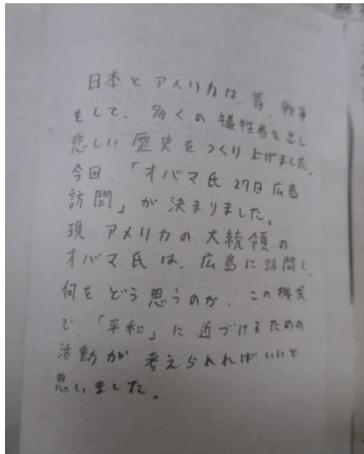


保育の分野の課題で、幼児に関する記事を探して感想を書いた。子どもが関係した事件の記事や、

子どもが活躍した出来事への記事などが選ばれていた。記事の内容をまとめたあと、考えたことや分かったことを記入した。グローブシアターづくり等、保育に関する授業が行われている中での課題であったため、関心をもって取り組むことができた。

### 1 4. 美術科の取組（3年生）

「いのち」の大切さを考える、というテーマで作品作りが行われた。最初に「いのち」の大切さに繋がる新聞記事を探し、感想を書いた。



平和に関する記事、子どもに関する記事、事件に関する記事、環境に関する記事がよく選ばれており、中には2つ以上の記事を選んだ生徒もあった。オバマ大統領の広島訪問の



記事を選んだ生徒は「『平和』に近づけるための活動が考えられればいいと思いました。」と感想を書いた。これを

もとに作品の構想を練り、「平和を世界に広げよう」をテーマにした作品を完成させた。作品は文化祭で展示された。新聞記事が与える影響を感じた。

### 1 5. 成果と課題

成果としては、新聞を読む機会を定期的に作ることができたことが挙げられる。特に3年生は「今日のひとこと」や様々な教科で新聞記事への感想を書く機会があり、新聞コーナーの利用率も高かった。また、昨年度は主に国語と社会でのみ新聞を利用していたが、今年度は他の教科でも取り組むことができた。3年生での活用が多かったのは事実であるが、1～3年生全てで新聞を学習に利用することができた。一方、課題としては各教科担当に任せていたため、系統立てて活用することができなかったことが挙げられる。また、学校の新聞コーナーは利用しても、家でも新聞を読むようになった生徒はあまり増加せず、習慣にすることはできなかったことも課題である。

手軽に新聞を利用し、これまでの活動に新聞を加える形で小さな実践を積み重ね、少ない負担で新聞を教材とすることができた。今後も新聞を教材として活用していきたいと考えている。